

# 性教育に関する一考察

角家 有美 (生涯スポーツ学科 学校スポーツ)

指導教員：中藪伸二

キーワード：性教育 人工妊娠中絶 避妊

## 1. 緒言

現在、10代の人工妊娠中絶は、増加傾向から、ここ数年はやや減少傾向であるが、依然として少なくないのが現状である。本研究では、手始めとして、「妊娠・人工妊娠中絶・避妊について」の大学生の知識・意識を把握し、今後の性に関する教育の方向性を考えていきたい。「妊娠・人工妊娠中絶・避妊について」の学習指導案を作成し、その教材案を用いて授業を実施する。授業前・後で大学生のその知識・意識を比較し、開発した教材案による授業の有効性を検討したい。

## 2. 研究方法

(1) 文献研究を通したいのちの知識・意識を高めることを目標とする「妊娠・人工妊娠中絶・避妊について」の学習指導案の作成

(2) 「妊娠・人工妊娠中絶・避妊について」の質問紙作成

(3) 「妊娠・人工妊娠中絶・避妊について」の予備的授業を大学2年生28名対象に、作成した教材案を用い、2011年12月に35分間で実施した。授業前・後で、上記の質問紙調査も行い、正解率を比較し、手始めとして、教材案の有効性を検討した。エクセル統計ソフトで、 $\chi^2$ 検定を施し、有意差検定も行った。

## 3. 結果と考察

・問題（発問）を多く取り入れ、写真、キーワードのカード、拡大図、DVDなど教材・教具を工夫して学習指導案に盛り込んだ。

・授業前に行ったアンケートによると、小、中、高校で印象に残った性教育の授業がある学生は、14%で少なく、興味を示すような授業は少なかったことが考えられる。

・授業前に比べ授業後に正解率が上昇し、授業効果があったと考えられる。授業前・後の知識で、統計的有意差が認められ授業後に高くなったのは、一回の射精での精子数、妊娠5週目の胎芽、卵管、母体保護法、人工妊娠中絶妊娠22週未満、クーパー腺液（以上、 $p<0.01$ ）、膣外射精は避妊法でないこと（ $p<0.05$ ）であった。意識は、授業後に高くなるが、授業前から比較的高いと考えられた。

・授業後すぐに授業内容に関する問題を行ったが、各問題の正解率は100%には達しず、更に教材・授業の改善と十分な時間の確保が必要であると考えられる。

・教科書や板書のための授業ではなく、児童や生徒にとって興味を示す教材・授業構成が、知識・意識レベルを上げることが示唆された。

## 4. まとめ

今回の「妊娠・人工妊娠中絶・避妊について」の授業は、授業前・後の質問紙調査結果を比較する限り、全体的に大学生の知識・意識へ良い影響を与えたといえる。板書だけさせる授業ではなく、質問紙調査でも明らかとなった印象に残る教材の工夫を徹底した授業、例えば、DVD鑑賞や体験型学習など幅広い学習方法で児童・生徒の知識・意識レベルを向上していくべきであると考えられる。

## 参考文献

池上千寿子（2011）思いこみの性 リスキーなセックス．岩波書店．

岩室紳也（2008）思春期の性．大修館書店．

村瀬幸浩（2004）性教育が深まる本．十月舎

財団法人日本性教育協会（2007）若者の性．小学館．